

第3回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会審議内容メモ

日 時：平成17年11月29日(火) 11:00～12:00

場 所：桜華会館 南館3階 桜花の間

出席者：松尾直規委員長、入江洋樹委員、加藤明司顧問

関係県市担当者4名

事務局（水資源機構職員18名）

配布資料

- ・第3回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会議事次第
- ・第3回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会出席者名簿
- ・第2回徳山ダム建設事業コスト縮減委員会審議内容メモ（資料-1）
- ・第2回コスト縮減委員会以降のコスト縮減策の検討経過（資料-2）
- ・縮減結果について（資料-3）

審議内容

1. 第2回委員会の審議内容の確認
第2回委員会の審議内容について、審議内容メモにより確認した。
2. 第2回コスト縮減委員会以降のコスト縮減策の検討経過
平成16年4月以降、ダム本体、管理設備、付替道路の各ワーキンググループを計36回開催したことが報告された。
3. これまで公表している縮減額のフォローアップ
新技術、新工法の導入、施工計画の見直し、新たな契約方式の導入、工事・調査等の入札価格との差額、補正予算導入に伴う工程短縮などにより、現時点で公表している縮減見込額約13億円～41億円に対し、コスト縮減策の実施状況のフォローアップを行った結果、約32億円～42億円となることが確認された。
4. 第3回コスト縮減委員会におけるコスト縮減策
堤体盛立工事の完了に伴い、フィルタ材製造、廃棄岩処理、カーテングラチング、選択取水設備工事における費用を見直した結果、現場の地質状況や工事の進捗状況等に応じた綿密な施工管理・品質管理等により、さらに約70億円の縮減が図られる見込みであることが確認された。
5. その他
 - ・今回の縮減成果により、徳山ダム建設事業費3,500億円から約102億円～112億円の縮減が見込まれることになり、コスト縮減委員会としては初期の目的をほぼ達成することが確実になったとの意見があった。
 - ・委員会としては水機構に対して引き続き更なるコスト縮減に努めるとともに、コスト縮減策のフォローアップをするよう要請した。
 - ・水機構からは引き続きコスト縮減を図るよう努めていくことを表明した。

（以上）